

本科 2 期 9 月度

解答

Z 会 東大 進学 教室

早慶大 世界史



14章 ウィーン体制

問題

【1】

解答

- 1 大学生（学生） 2 i 炭焼党（炭焼き） ii c
3 i 青年貴族（青年将校） ii ナポレオン戦争への従軍
4 i ナヴァリノ海戦 ii ロシア 5 c

解説

ウィーン体制への抵抗運動の基礎的な部分をまとめた一問一答式問題。全問正解が望ましい。

- 1815年に結成されたブルシェンシャフトはドイツの自由と統一を求める大学生の団体なので、ここでは「大学生」もしくは「学生」と答えたい。
- i カルボナリはイタリア語で“炭焼き”を意味する。「炭焼き」か「炭焼党」と答えよう。
ii ウィーン議定書の内容をしっかりと理解すれば簡単に解ける問題である。ナポレオンは自分の兄ジョゼフを1806年にナポリ王としたが、ウィーン会議での正統主義の流れから、1815年にブルボン家が復活した。
- デカブリストはナポレオン戦争に従軍した青年貴族（将校）たちが、自分たちの国ロシアの後進性に気づき、その改革をめざして結成した秘密結社である。ウィーン体制への反抗としては、先にも述べた通りドイツではブルシェンシャフト、イタリアではカルボナリ、ロシアではデカブリストが結成されている。各集団がどのような層を母体としているのか、また何をめざしたのか、という点を比較し、はっきりと覚えておきたい。母体となる層が違えば、当然めざすべき理想も変わってくるのは自明である。
- i やや難。1827年のナヴァリノ海戦でオスマン帝国と戦ったのはイギリス・ロシア・フランスの3国艦隊であった。
ii 1829年にロシアと結んだアドリアノーブル条約で、オスマン帝国はギリシア独立を認めた。ギリシア独立の国際的承認は、1830年のロンドン会議においてである。
- シモン=ボリバルはベネズエラ・コロンビア・エクアドル・ボリビアの独立運動を、サン=マルティンはアルゼンチン・チリ・ペルーの独立運動を指導している。ウィーン体制下のラテン=アメリカの独立運動の指導者として、受験世界史では主にこの2人を押さえておけば問題はないが、さらにハイチの独立運動を指導したトゥサン=ルヴェルチュール、メキシコの独立運動を指導した神父イダルゴも併せて確認しておけばなおよい。

【2】

解答

問1 イ 問2 シェイエス 問3 ハ 問4 ニ

問5 イギリスはナポレオン時代以降中南米との経済的結びつきが強まっており、中南米を自国の産業資本の市場とするためには独立させたほうが好都合だった。(70字)

問6 クリオーリョ

問7 多様な民族からなる主にキリスト教徒がイスラーム帝国からの独立をめざし、強い利害関係を持つイギリス・フランス・ロシアなどの列強が介入した。(68字)

問8 モノカルチャー

解説

ウィーン会議とラテン=アメリカ独立をテーマにした問題。設問は総じて基本的な内容であるので、このような問題で確実に得点しておきたい。問7の小論述はやや国公立大寄りな内容ではあるが、難関私大ではよく見る難易度である。まずは問5のような基本的な論述をしっかりとこなしした上で、問7のような論述への対策も行っておこう。

問1 イ ナポレオンはローマ教皇との間に1801年に宗教協約を結び、フランス革命以来禁止されていたカトリックの信仰を復活させ、国教とした。

ロ ナポレオンは1799年11月にブリュメール18日のクーデタで総裁政府を倒し、統領政府を樹立した。3人の統領が置かれたが、ナポレオンが第一統領となり、実質はナポレオンの独裁であった。

ハ ナポレオンは1806年に大陸封鎖令を出し、イギリスと大陸諸国との間の通商を禁止した。これによってイギリスに経済的な打撃を与えるとともに、フランスの産業にヨーロッパ大陸の市場を独占させることをねらった。しかし、イギリスは封鎖令の影響をあまり受けず、かえってイギリスに穀物を輸出し、生活必需品を輸入している他のヨーロッパの国々が大きな打撃を受け、フランス国内の産業も原料を海外から輸入できず、発展しなかった。

ニ 1805年のトラファルガーの海戦でナポレオン軍はイギリス軍に敗れ、イギリスの本土上陸を諦めた。ナポレオンによるロシア遠征の失敗後、1813年のライプチヒの戦いでナポレオン軍はプロイセン・ロシア・オーストリアの同盟軍に敗れ、パリも占領されてナポレオンは退位した。ナポレオンの失脚でルイ16世(位1774～92)の弟のルイ18世(位1814～24)が即位した。

問2 シェイエスは1789年に「第三身分とは何か」というパンフレットで、第三身分とはすべてである、と主張した。彼は国民議会で第三身分の代表となり、活躍した。

問3 イ ウィーン議定書は1815年に調印された。オランダはオーストリア領ネーデルラント(ベルギー)を合併し、オランダ立憲王国となった。

ロ ワルシャワ大公国の大部分から成るポーランド立憲王国が成立したが、ロシア皇帝がポーランド王を兼ねた。

ハ ウィーン会議では、フランス革命前の王朝や領土を正統のものとする正統主義が基本原則とされた。それに則って、フランス・スペイン・ナポリではブルボン家が復位した。

ニ ドイツでは、オーストリア・プロイセンなど35の君主国と4自由市から構成されるド

イツ連邦が結成され、オーストリアが盟主となった。

問4 イ ハイチは1697年にスペイン領からフランス領になった。本国のフランスで革命が起こると、その影響を受けて1791年に黒人奴隷の反乱が起こり、トゥサン=ルヴェルチュールを指導者に独立運動が始まった。ナポレオン軍と戦い、1804年に独立を達成した。

ロ コロンビアはシモン=ボリバルの指導でスペインからの独立を宣言し、大コロンビア国として独立した。大コロンビアには、現在のコロンビア・パナマ・ベネズエラ・エクアドルが含まれていた。ボリビアは1825年にスペインから独立した。

ハ メキシコでは、1810年に神父のイダルゴが反乱を起こした。彼の死後も運動は続き、1813年にスペインからの独立を宣言し、1821年に独立を達成した。

ニ ポルトガルがナポレオンの侵攻を受けている間、ポルトガル王室は植民地のブラジルに避難していた。本国がフランスから解放されると、国王はポルトガルに戻ったが、王子が残って1822年にブラジルの独立を宣言し、自ら国王となった。

問5 イギリスでは18世紀後半から産業革命が進展しており、ナポレオンが大陸封鎖令を出して以来、中南米との経済関係が強まっていた。中南米で独立運動が始まると、外相のカニングは中南米諸国を自国の産業資本の市場として確保することをねらって、オーストリアなどの干渉を排除して独立を支援した。

問6 中南米諸国の独立運動の主体となったのは、クリオーリョと呼ばれる植民地生まれの白人であった。独立後はクリオーリョが国の支配層となった。なお、アメリカ大陸の先住民をインディオ、白人とインディオの混血をメステイソ、白人と黒人の混血をムラートという。

問7 オスマン帝国が支配したヨーロッパ地域には、スラヴ系・アジア系などの多様な民族があり、キリスト教徒も多かった。そのため、この地にはイギリス・フランス・ロシア・オーストリアなどの列強の利害が複雑に絡み合っており、独立運動には列強が介入した。1821年にオスマン帝国からの独立運動を始めたギリシアは、イギリス・フランス・ロシアの援助を受けて独立を達成した。

問8 単一または少数の一次産品や工業原料の生産・輸出に依存している経済構造のことをモノカルチャーという。一次産品や工業原料の価格は変動が激しいため、経済が不安定になりやすい。

【3】

解答

[A] a 18 b 21 c 24 d 19 e 25 f 22 g 15 h 13
i 23 j 20

[B] イ 諸国民の春 ロ フランクフルト国民議会

[C] (1) (a) ルイ=ブラン (b) 労働委員会 (リュクサンブール委員会)

(2) 社会主義者の四月総選挙での敗北 (15字)

(3) 統一方法をめぐる大ドイツ主義と小ドイツ主義との対立 (25字)

(4) 青年イタリア

(5) 革命の成果より産業革命の進展による国富増を重要視したため。(29字)

(6) ルイ=ナポレオン (ナポレオン3世)、もしくはビスマルク

(7) 政治参加を達成し保守化した中産階級が、一定の権利を賃金労働者に認めつつ支配した。

(40字)

解説

あのマルクスでさえ、“世界”といえ、ヨーロッパしか念頭になかった。まさに1848年にヨーロッパの全域で起こった事件は、世界革命と呼べる出来事であろう。学習の過程では、事項一つ一つの歴史的意義を確認する作業を怠ってはならない。問題文が何をさしているのかわからなければ、かなり苦しいであろう。

[A] a・b 1830年の七月革命は、自由主義が絶対主義を葬り去った革命といえることができる。その自由主義に拮抗する勢力としての民主主義はまだ力を持ち得ていない。七月王政期にこの民主主義が勃興していくのである。民主主義の中で最も過激な思想が共産主義思想であり、この思想を準備したのが産業革命にはかならない。フランスの産業革命は、七月王政期に大陸ではベルギーに次いで進められたが、その利益は一部のブルジョワに帰するだけであった。有権者は全人口の1%に満たなかったため、選挙法改正運動が次第に高まり始め、穏健な共和派から社会主義者までを含む勢力との対立が深まった。さらに、1840年には第2次エジプト=トルコ戦争におけるイギリス外相パーマストンの巧みな外交政策の前に失策を犯し、軟弱外交との批判が高まった。こうした中、1847年に選挙法改正法案は廃案となり、改革宴会と呼ばれる運動が始まったが、ギゾー内閣はこれを弾圧した。そして1848年、ついにパリで市民が武装蜂起し、ルイ=フィリップは亡命して七月王政が倒れた。

c・f・g・j ウィーンで発生した三月革命の影響は、オーストリア帝国内の民族主義を高揚させた。ハンガリーではマジャール人がコシュートらを指導者に義勇軍を結成し、民主的新憲法をハプスブルク家に認めさせた。ベーメンでもパラツキーらがチェコ人の帝国内民族同権を主張して立ち上がった。メッテルニヒはこの騒乱の中でロンドンへ亡命し、皇帝もフランツ=ヨーゼフ1世に代わる。しかしイタリア軍を破り、チェコを鎮圧した後、ロシアに援軍を頼みハンガリー革命を鎮圧させたことで、ここでも反動勢力が勝利を得た。

d 難問。二月革命の影響はベルリンで三月革命として波及した。市街戦が繰り返され、自由主義的なカンプハウゼン内閣が成立した。ドイツ各地でも革命が起き、プロイセンと同様の動きがあった。ドイツ三月革命の大きな目標は、自由主義的革命を起こすことだけではなく、その先に念願のドイツ統一があった。これらを背景として1848年5月、フランクフルトでドイツ統一を準備する議会が開かれた(フランクフルト国民議会)。統一方法では、オーストリア領内のドイツ人居住地域を含める“大ドイツ主義”と、多民族国家オーストリアを除外する“小ドイツ主義”が対立し、結局“小ドイツ主義”が採用された。1849年3月、フランクフルト国民議会は民主的なドイツ国憲法を作成し、プロイセン王のフリードリヒ=ヴィルヘルム4世を皇帝に推したが、プロイセン王は帝冠を拒否した。すでにこの時点で三月革命は反動期に入っており、プロイセンでも内閣が交替するたびに保守化していった。フランクフルト国民議会は解散させられ、制限選挙法で選ばれた議員の手による保守化したプロイセン憲法の発布で、三月革命は空塞させられたのである。

e・h・i 二月革命勃発後、フィレンツェ・ローマに憲法が与えられ、三月革命後にはミラノで“ミラノの5日間”と呼ばれる市街戦の結果、オーストリア軍が撤退した。またヴェネ

ツィアは再び共和政を宣言した。この全イタリア的運動を背景に、北部イタリアを支配しているオーストリアに対して、サルデーニャ王国のカロ＝アルベルトが宣戦した。しかし4月になって自由主義的教皇と呼ばれたピウス9世が反動化しオーストリアとの戦争を中止する旨を発表したことから、戦況はオーストリア軍へ有利に働き、イタリアの各地でも旧君主が復位するなどの反動が起こり始め、カロ＝アルベルトもオーストリア軍に敗れた後に退位、そして死去する。教皇が民衆運動によって一時ナポリ王のもとへ亡命したことで、マツィーニやガリバルディら青年イタリアのメンバーが、1849年2月にローマ共和国を樹立するが、この動きもルイ＝ナポレオン率いるフランス軍に退けられた。このような過程を経て、イタリアの自由と独立の道は閉ざされたように見えたが、唯一オーストリアと戦えるだけの軍隊を準備していたサルデーニャがその後のイタリアの統一を先導していくことになる。

[B] イギリス・ロシアを除く1848年のヨーロッパの騒乱を“諸国民の春”と呼ぶ（イギリスではチャーティスト運動が最も高揚した時期）。これは2つの革命から成り立っていた。1つはフランスに見られる民主主義革命、もう1つはドイツ・イタリアに見られる自由主義・民族主義革命である。

ロ [A] - dを参照のこと。

[C] (1) (a) 二月革命で活躍した社会主義者といえばルイ＝ブラン、ブランキらが思い浮かぶが、ここでは問題文中の「政府に参画」という部分から、労相として入閣したルイ＝ブランが適当である。

(1)-(b)・(2) 労働委員会（リュクサンブール委員会）は失業者対策として国立作業場（国立工場）の設置と、労働時間の短縮を決定した。パリの武装労働者が起こした革命らしい政策であったが、普通選挙制の採用による四月総選挙で、社会主義者たちは大敗した。これは労働者の福祉の負担を農民の地租増加に求めたことで農民が反発したことに加え、土地公有化への不安が農民の共和派への投票を促したことが原因であった。5月にはブランキが指導する労働者のデモがあり、保守化した政府は社会主義者の対応に迫られる。国立作業場に集まる失業者たちの日当だけで政府は赤字となり、ブルジョワからも政府に対する批判が相次いだ。そのため6月に政府は国立作業場を閉鎖し、パリの労働者は暴動を起こした（六月暴動）。政府はやむを得ずカヴェニャックに独裁権を与えてこれを鎮圧し、労働者たちは再び政治の舞台から降ろされたのである。

(3) [A] - dを参照のこと。

(4) [A] - e・h・iを参照のこと。

(5)~(7) 1848年はマルクスとエンゲルスが『共産党宣言』を発表した年でもあった。これを象徴するようにフランスの二月革命では、社会主義者が政権に一時参加した。ドイツの三月革命でも、ブルジョワと結託した労働者階級が革命に参加した。しかしいずれもブルジョワの反動によって失敗に終わってしまう。フランスで成立した第二帝政をマルクスはボナパルティズムと名付けた。ブルジョワと労働者の勢力均衡の上に成り立ち、土地所有を確認された農民の絶大な支持が、民主主義を装う独裁体制を築かせたのである。第二共和政で裏切られた労働者の支持を得るため、普通選挙の復活など社会政策を実施したことはこれを見事に裏付けている。一方で、ブルジョワにも保護政策を採って産業育成をはかることも行う。のちにドイツを統一するビスマルクも普通選挙を採用し、社会保険の実施で労働者階級の革命

機運をそらす一方でユンカーを保護し、保護政策による産業育成を怠らなかつた。普通選挙の実施は、労働者階級と対立するブルジョワの保守化を確実なものとし、市民革命は起こり得なくなる。産業革命による国富の増大は、労働者とブルジョワの間に中間階級とも呼べる新たな階級を生み出し、先進資本主義国では社会主義革命さえも遠ざけることになる。この後のヨーロッパはブルジョワと労働者の関係、民族独立の運動、国民国家の完成とともに訪れる国家間の対立といったところで展開されるようになる。

そういった意味で、(6)の解答はビスマルク（プロイセン首相；任 1862～90、ドイツ帝国宰相；1871～90）でも正解とするが、やはり設問文の「(1848年) 当時の人」という条件を活かすと、ルイ=ナポレオン（大統領；任 1848～52、皇帝ナポレオン 3 世；位 1852～70）が最も適当といえる。

【4】

解答

設問 1 (1) ④ (2) ④ (3) ③ (4) ③ (5) ⑤ (6) ② (7) ① (8) ②
(9) ⑤ (10) ①

設問 2 ⑤ 設問 3 ② 設問 4 ⑤ 設問 5 ③ 設問 6 ⑤

解説

設問 1 (1) ルソーの著作として『人間不平等起源論』『社会契約論』『エミール』は覚えておくこと。ルソーは『エミール』の中で、文明の進歩と私有財産が人間を墮落させたとして、「自然へ帰れ」と主張した。

(2) フランス革命の初期段階と考えられる「貴族の革命」は自由主義貴族を中心に進められ、立憲君主政の樹立がはかられた。その中心にいたのがミラボーやラ=ファイエットである。

(3) 空欄直前に「1796年」とあるので、総裁政府（1795～1799）とわかる。

(4) 総裁政府は 1799 年のブリュメール 18 日のクーデタで倒され、1799 年から統領政府（1799～1804）となる。その後、第一統領のナポレオンが国民投票で皇帝に即位し、第一帝政（1804～1814、15）が開始された。

(5) ルイ 18 世は、ギロチンで処刑されたルイ 16 世の弟で、ナポレオン 1 世の退位を受けて亡命先のイギリスから帰国し即位した。ルイ 18 世はカトリックを国教とする一方で、法の下の平等、言論・出版の自由、所有権の不可侵などを示し、フランス革命の成果を認めた中道政治を展開する。

(6)・(7) シャルル 10 世はルイ 18 世の弟で、兄の後を受けて即位すると、ルイ 18 世の中道政治を継承せずに、反動政治を行なった。1830 年の選挙で自由派が多数を占めることが判明すると、七月勅令で未召集の議会を解散し、出版の自由の制限、選挙権の制限などを行った。これが七月革命の直接の原因となる。革命勃発直前にはアルジェリア出兵で反動政治の不満をそらすことを試みるが、七月末にパリで暴動が発生しシャルル 10 世は退位する。

(8) 1830 年に、ティエールを編集長とする新聞の『ナシオナル』（英語読みで『ナショナル』）紙が創刊された。シャルル 10 世の七月勅令に対し、同紙は号外を出して抵抗を呼びかけた。ティエールは普仏戦争（1870～71）後の臨時政府の首班としては受験生にも有名であるが、この空欄(8)の問い方で答えるのは受験ではつらいであろう。

(9) ドラクロワはロマン派の画家。ギリシア独立戦争を題材にトルコ人の残虐さを極端に描くことで、ギリシア独立を支援した「キオス島の虐殺」も有名。

(10) ギゾーは中小ブルジョワや労働者への選挙権拡大には反対し、改革宴会に干渉した。彼は『ヨーロッパ文明史』で知られる歴史家でもある。

設問2 マラーが1793年にシャルロット=コルデーに暗殺された後、ジャコバン派の最高機関に当たる公安委員会はロベスピエールが実権を握る。ロベスピエールとその右腕にあたるサン=ジュストは、ジャコバン派内でも右派のダントンや左派のエベールを粛清する。サン=ジュストは知らずともロベスピエールの名から正解へ至ることができる。

設問3 ペンシルヴァニアの中心都市であるフィラデルフィアは、アメリカ独立後の1790年から1800年まで、合衆国政府の所在地（首都）であった。

設問4 ウィーン議定書で、フランス・スペインに加え、ナポリでもブルボン家が復活するので、選択肢⑤は誤り。

設問5 選択肢①は「連邦議会はこの要求（=憲法制定）の実現を約束した」が誤り。選択肢②は「共和政を発足」が誤りで、ベルギーは王国として独立する。選択肢④・⑤は二月革命の影響による1848～49年の出来事なので誤り。選択肢⑤中のヴェネツィアは共和国を宣言するが、ミラノは共和派とそれへの抵抗派が対立するので、両市が「共和国を宣言」とするのも不適切。

設問6 選択肢①はフランス人権宣言、選択肢②はモンテスキューの『法の精神』、選択肢③はルソーの『社会契約論』、選択肢④はプルードンの『財産とは何か』。

15章 19世紀のイギリス・フランス・ロシア

問題

【1】

解答

- A ダーリントン B 地下鉄 C 功利主義 D ロバート＝オーウェン
E 空想的社会主義 F 科学的社会主义 G 社会主義者鎮圧法 H 災害
(1) (a) ナポレオン3世 (b)万国博覧会 (2) 下水道の整備 (3) 社会問題
(4) 最大多数の最大幸福 (5) ハーバート＝スペンサー (6) ルイ＝ブラン

解説

19世紀ヨーロッパをテーマに出題した。基本的な問題が主だが、やや盲点を突いた設問もある。題意が読み取りにくい問題に対しても注意して取り組んでほしい。

- A スティーヴンソンが実用化へ向けて改良を加えた蒸気機関車は、1825年にストックトン・ダーリントン間での試験走行に成功した。
- B イギリスでは1830年に鉄道が本格的に営業運転を開始し、1863年には地下鉄も開通した。
- C・(4) 功利主義を提唱したベンサムは、「最大多数の最大幸福」を実現することが社会の発展であると主張し、産業資本家の支持を得た。
- D～F ロバート＝オーウェンはスコットランドのニューラナークで、自らの経営する工場の労働者の福祉向上に努めた。1820年代にはアメリカで理想的協同社会をめざしニューハモニーの建設を試みたが、失敗に終わった。このような、主に人道主義的立場から理想的社会の実現をめざす社会主義を、エンゲルスは批判的立場から「空想的社会主義」と呼び、自らの社会主義の正しさを主張して「科学的社会主义」と称した。
- G ビスマルクは社会主義運動を弾圧するために社会主義者鎮圧法を1878年に制定したが、かえって反発する社会主義的組織の運動を助長する結果となった。
- H ビスマルクは労働者を社会主義運動から切り離して国民統合の一環に取り込むために、数々の社会政策を実施した。主な施策としては1883年の疾病保険制度、84年の災害保険法、89年の養老保険法などが挙げられる。
- (1)・(2) 国民投票によって皇帝に就任したナポレオン3世(位1852～70)は、フランスの国威発揚に注力し、1855年にイギリスに続いて万国博覧会を開催した。万国博覧会の開催に当たりオスマンによってパリの大改造が行われ、道路の整備や建物の高さ制限などの都市整備が進んだ。19世紀の細菌学の発達により、伝染病の発生と細菌の活動が関連することが明らかになったことから、安全な水の供給が必要とされ、下水道の整備も推進された。
- (3) 資本主義が進展するにつれ、都市の人口が急増したことによって労働者の住環境が悪化し、長時間労働によって伝染病が蔓延するなど、労働・住宅・衛生・物価・犯罪など、様々な分野で問題が生じた。これらの問題を総称して社会問題という。
- (5) ハーバート＝スペンサーは功利主義と進化論を結合した社会進化論を提唱した。

(6) ルイ=ブランは二月革命で活躍し、臨時政府に入閣して国立作業場の設置などの社会主義政策を実施した。しかし、その後有産市民と農民が保守化したことで四月普通選挙で落選し、六月暴動が鎮圧されたのち、イギリスに亡命した。

【2】

解答

問1 c 問2 c 問3 a 問4 b 問5 a 問6 e 問7 c
問8 d 問9 c

解説

19世紀の欧米諸国に関連して、政治、社会・経済など幅広い分野について問うた。正誤問題の見極めはやや細かいが、慎重に読んで正解してほしい。

問1 リカードは古典派経済学者であり、経済活動への国家の干渉を排除した自由貿易を提唱したが、歴史学派経済学者であるリストは、保護貿易主義を主張してドイツ関税同盟の結成にも尽力した。

問2 自由党のグラッドストーンは、4回首相に就任し（任1868～74, 80～85, 86, 92～94）、選挙法改正、アイルランド自治問題などの政策を実施した。1884年の第3回選挙法改正では、農業労働者・鉱山労働者に選挙権が認められた。

問3 『イギリスにおける労働者階級の状態』を著したのはエンゲルスである。マルクスの著書としては、『資本論』が名高い。

問4 七月王政は1830年の七月革命で成立し、1848年の二月革命で崩壊した。bのポーランド反乱は1830～31年に勃発した。aの青年貴族将校らによる自由主義的改革を求めて蜂起した反乱（デカブリストの乱）は1825年に勃発した。cのカトリック教徒解放法は、1829年に制定された。dの世界最初の海底電信ケーブルは、1851年に敷設された。eのストックトン・ダーリントン間での蒸気機関車の試験走行は、1825年に行われた。

問5 1792年に山岳派がテュイルリー宮殿を襲撃し、立法議会は王権の停止を宣言して解散した。その後男子普通選挙により成立した国民公会が王政の廃止と共和政の成立を宣言して、第一共和政が開始された。

問6 パラツキーはスラヴ民族会議を指導し、オーストリア内のスラヴ民族の団結を主張した。

問7 20世紀初頭の時点では、産業革命を達成して重化学工業を中心に発展を遂げていたアメリカ・ドイツが、イギリスをしのぐ工業生産力を達成していた。したがって、イギリスはcである。

問8 ロシアの蔵相ウィッテ（任1892～1903）は、保護主義政策や外国資本の積極的な導入を行い、シベリア鉄道建設やロシアの資本主義化を推進した。また、ポーツマス会議では全権大使を務めた。

問9 アメリカ労働総同盟（AFL）は、熟練労働者の職業別連合組織で、労働条件の改善に重点を置く穏健な運動を展開した。サミュエル=ゴンパーズはアメリカ労働総同盟の結成を指導し、初代会長に就任した。

【3】

解答

問1 1 f 2 q 3 a 4 e 5 d 6 g 7 c

問2 A a B c C h D f

問3 c 問4 b 問5 c 問6 a

問7 1 e 2 a 3 d 4 c

問8 d 問9 d 問10 b・d 問11 c 問12 b

解説

ナポレオン3世の時代に関する問題である。リード文はナポレオン3世の外征についてまとまった文章になっているので、復習の際にはもう一度内容をよく確認してほしい。

問1 1・4 ナポレオン3世は、サルデーニャ王国の首相カヴールと1858年にプロンビエールの密約を結び、フランスがサルデーニャのオーストリアに対する独立運動を支援する代わりに、サルデーニャはフランスへサヴォイア・ニースを割譲することを約した。しかし、統一戦争が勃発すると、フランスはサルデーニャの強大化を恐れて単独でオーストリアとの講和を締結し、フランス軍を撤退させた。その後、1860年にサルデーニャが中部イタリアが併合すると、フランスはその代償としてサヴォイア・ニースの割譲を受けた。

問1 2・3 イタリア統一戦争の講和条約の結果、サルデーニャはフランスを介してロンバルディアを獲得したが、ヴェネツィアの併合には至らなかった。ヴェネツィアはプロイセン=オーストリア戦争（普墺戦争）にイタリアが参戦し、その講和条約によって1866年に併合された。

問1-5・問2-C ナポレオン3世は1861～67年にメキシコへ出兵し、オーストリア皇帝の弟マクシミリアンを皇帝に即位させた。しかし、メキシコ軍の抵抗や合衆国の抗議によってフランス軍は撤退に追い込まれ、ナポレオン3世の権威は大きく失墜した。

問1 6 ナポレオン3世はプロイセン=フランス戦争において、スダン（セダン）で捕虜となり廃位され、第二帝政は崩壊した。

問1-7・問2-D ティエールを行政長官として成立した臨時政府は対独講和を進め、1871年にヴェルサイユにおいて講和条約を結んだ。

問2 A・B ヴィットーリオ=エマヌエーレ2世はカヴールを首相に起用してイタリアを統一し、初代国王となった。

問3 a・d ルイ=ナポレオンはクーデタを起こして臨時政府の議会を解散させ、翌年国民投票によってナポレオン3世に即位した。

b 六月暴動を鎮圧したのはカヴェニャックである。彼は1848年12月の大統領選挙でナポレオン神話を巧みに使用したルイ=ナポレオンに敗れた。

問4 a ナポレオン3世は、万国博覧会の開催に当たり、オスマンに命じてパリ市街の整備を行わせた。

c パリ万国博覧会の開催は1855年であり、アロー戦争は1856～60年であるため、賠償金とは無関係である。

d パリ万国博覧会は、イギリスのロンドン、合衆国のニューヨークに次いで3回目の開催で

あった。

問5 a・b クリミア戦争の原因は、イェルサレムの聖地管理権をロシアがオスマン帝国に対して要求したことである。フランスはロシアの南下を阻止するため、イギリスなどとともにオスマン帝国側で参戦した。

d クリミア戦争の講和条約であるパリ条約によってロシアの南下政策が阻止された。ベルリン会議はロシア=トルコ戦争の結果締結されたサン=ステファノ条約の結果にイギリス・オーストリアが反発したことから、調整のために開催された会議である。

問6 b プロンビエールの密約では、サヴォイア・ニースがサルデーニャの対オーストリア戦争を支援する代償としてフランスへ割譲することが定められていた。

c・d イタリア統一戦争はプロンビエールの密約が締結されたことを知ったオーストリアから開戦した。開戦後、イタリア統一をめざすサルデーニャがオーストリアに対して連勝すると、ナポレオン3世はサルデーニャの強大化を恐れてオーストリアと単独講和を結んだ。

問7 ガリバルディは当初、マッツイーニの結成した「青年イタリア」に加わり、ローマ共和国の防衛などにも加わったが敗れて亡命した。1859年に帰国し、共和主義の立場からの統一をめざして、千人隊（赤シャツ隊）を率いてシチリア・南イタリアを征服したが、カヴールの策略により征服地をヴィットーリオ=エマヌエーレ2世へ献上することとなった。

問8 a スエズ運河の開通は1869年である。

b ビスマルクの首相就任は1862年である。

c カンボジアの保護国化は1863年である。

問9 労働者のための国立作業場が設立されたのは、第二共和政時である。

問10 a メキシコ出兵（1861～67）は、合衆国において南北戦争（1861～65）が展開されている間に行われた。

c メキシコ大統領ディアスは1876年にクーデタを起こして大統領に就任した。

問11 パリ=コミューンは、臨時政府の対独講和に反対するパリ市民により結成された、労働者による自治政府であり、民主主義による議会政治をめざした。しかし、ドイツの支援を得たティエール率いる臨時政府により鎮圧された。

問12 第三共和政憲法では、任期7年の大統領制が定められ、三権分立の原則に立脚していた。

16章 ドイツ・イタリアの統一

問題

【1】

解答

問1 ① H ② C ③ A ④ L ⑤ Q ⑥ U

問2 (ア) B (イ) C (ウ) B (エ) E

解説

ウィーン体制以降、イタリア統一までの流れを扱った基本問題。とくに苦戦する問題も見当たらないと思われる。全問正解が望ましい。

- 問1 ① 北イタリアのピエモンテに基盤を有するサヴォイア家の下で、1720年にサルデーニャ島を獲得してサルデーニャ王国が形成された。
- ② ウィーン議定書によって、オーストリアは南ネーデルラントをオランダに譲る代わりに、北イタリアのロンバルディアやヴェネツィアを獲得した。サルデーニャ王国は、1859年のイタリア統一戦争でフランスの協力を得るが、イタリア統一を嫌ったフランスがオーストリアとの間にヴィラフランカ条約を結び、サルデーニャ王国はロンバルディアのみの奪回を果たした。
- ③～⑤ イタリア統一運動（リソルジメント）の中心的存在である首相のカヴールはイギリスに留学し議会政治に触れた経験から、立憲政治の確立をめざした。クリミア戦争（1853～56）に参加しサルデーニャの国際的地位を高め、1858年にはフランス皇帝ナポレオン3世との間でプロンビエール密約を結び、サヴォイアとニースの割譲を代償として、フランスのサルデーニャ支援を取りつけた。イタリア統一戦争では、ナポレオン3世の背信でロンバルディアのみの獲得となったが、1860年にサルデーニャ王国が中部イタリア諸国を併合した際に、フランスを懐柔する目的で、サヴォイアとニースはフランスへ割譲された。
- ⑥ 青年イタリアを結成したマッツイーニ、首相のカヴールと並んでイタリア統一運動の三英雄とされるのが、ガリバルディである。彼は青年イタリアの一員として活躍した。1860年に千人隊（赤シャツ隊）を結成し、ブルボン家が支配するナポリ王国の圧制に対するシチリア島民反乱を支援した。この後に、カヴールの制止も聞かずに南イタリアに義勇軍を進め、ナポリを制圧し南イタリアを解放した。
- 問2 (ア) 1815年にイギリス・オーストリア・プロイセン・ロシアで結成された四国同盟は、1818年にフランスが加盟することで五国同盟となる。同盟国が中心となり、ウィーン体制下での自由主義・国民主義の弾圧と勢力均衡による「ヨーロッパの協調」がめざされた。しかし自由主義外交へと方針を転換したイギリスが1822年に同盟を脱退すると、協調は崩れだし、事実上同盟は解体へと向かう。
- (イ) ドラクロワはロマン派（ロマン主義絵画）の画家。他の選択肢も確認しておくと、ミレーは自然主義絵画、マネとモネは印象派、クールベは写実主義絵画に分類される。

- (ウ) ナポレオン3世の第二帝政期（1852～70）のフランスが行った対外戦争は、年代順に確認しておくこと。クリミア戦争（1853～56）・アロー戦争（1856～60）・インドシナ出兵（1858～67）・イタリア統一戦争（1859）・メキシコ出兵（1861～67）・普仏戦争（1870～71）と続く。
- (エ) 1929年にムッソリーニが教皇ピウス11世との間に結んだのがラテラン（ラテラノ）条約である。この条約でローマ市内にヴァチカン市国の独立が承認され、カトリックをイタリアの国教とすることで、教皇とイタリア王国の絶交状態は終了した。同時に教皇もムッソリーニによるファシスト政権を承認し、教会との関係回復の実現で、ムッソリーニへの支持が強まることとなった。

【2】

解答

問1 1 a 2 g 3 o 4 n 5 e 6 r 7 h 8 j
9 d

- 問2 A ライン同盟 B 農民解放（営業の自由，教育改革，軍制改革など）
C 「ドイツ国民に告ぐ」 D ブルシェンシャフト
E オーストリアを除き，プロイセン中心にドイツ統一をめざす考え。（30字）
F シュレスヴィヒ G 青年イタリア H 千人隊（赤シャツ隊）

解説

ドイツ・イタリアの統一に関する基本的問題。合否の分かれ目は、問1～7で応用を利かせて正解できるか、問2-Eの論述での減点を減らせるか、Gをカルボナリ党と安易に間違わないか、の3点になるだろう。

- 問1 1 1804年のナポレオンの皇帝即位に対し、イギリス首相ピット（トリー党；任1783～1801, 04～06）の提唱でイギリス・オーストリア・ロシアが第3回対仏大同盟（1805）を結成する。この動きに対しナポレオンはイギリス本土上陸をめざし、ジブラルタル海峡の北西でイギリス海軍と衝突した。このトラファルガーの海戦（1805.10）でフランス・スペイン連合艦隊はイギリスのネルソンに敗れ、上陸を一時断念したが、一方でアウステルリッツの戦い（三帝会戦；1805.12）ではロシア（ロシア皇帝アレクサンドル1世；位1801～25）・オーストリア（神聖ローマ皇帝フランツ2世；位1792～1806）の連合軍を破り、プレスブルクの和約（1805）を結び第3回対仏大同盟を崩壊させた。
- 2 プロイセンは第2・3回対仏大同盟に参加しなかったが、ナポレオンはこれをイエナの戦い・アウエルシュテットの戦い（1806）で次々と破り、ベルリンを占領してティルジット条約（1807.7）の締結を行った。この結果、エルベ川以西のプロイセンを奪ってウェストファリア王国を建国し、プロイセン領ポーランドを奪ってワルシャワ大公国を建設した。これにより、プロイセン領は半減した。
- 3 屈辱的なティルジット条約後、プロイセンは近代化をはかり、シュタイン首相（任1807～08）の農奴解放（1807）、ハルデンベルク首相（任1810～22）の行政機構の改革、シャルンホルスト・グナイゼナウの軍制改革などを次々と打ち出した。フンボルトの教育改革ではベルリン大学が創設され、初代学長となったドイツ観念論の哲学者フィヒテの連続講演

「ドイツ国民に告ぐ」はドイツ人の民族意識を大きく高揚させた。ベルリン大学は山川用語集では参考レベルとなっているが、入試では頻出なので押さえておこう。

- 4 ベルリン三月革命でプロイセン王フリードリヒ=ヴィルヘルム 4 世（位 1840～61）が憲法制定を約束し、自由主義内閣が成立すると、ドイツ各領邦の自由主義者がフランクフルトでドイツの統一と憲法を論議した。
- 5 普仏戦争（1870～71）中、パリ陥落直前にヴェルサイユ宮殿の鏡の間でヴィルヘルム 1 世が即位し、ドイツ帝国が成立した。
- 6 教皇領を守るフランスが二月革命（1848）で混乱すると、マッツイーニが青年イタリアを率いてローマ共和国を建設した（1849.2）。
- 7 難問。サルデーニャ王国の都となると、1861年に成立したイタリア王国最初の首都であるトリノだと類推できるだろう。
- 8 サルデーニャのクリミア戦争参戦（1855）を契機に首相のカヴール（任 1852～61）はフランス皇帝ナポレオン 3 世（位 1852～70）の関心を得ると、プロンビエール密約（1858）でサヴォイアとニースの割譲を条件にフランスがサルデーニャによるイタリア統一を支持し、対オーストリア戦争に味方することを認めさせた。
- 9 頻出問題。イタリアの統一過程での領土拡大はイタリア統一戦争（1859）で獲得したロンバルディア、普墺戦争でのヴェネツィア、サヴォイアやニース、また未回収のイタリアと呼ばれた南チロルやトリエステも地図で確認しておこう。

▼イタリアの統一



問2 A 西南ドイツ諸邦を併せたライン同盟の成立は、神聖ローマ帝国（962～1806）の滅亡を意味する。

B 問1～3の解説を参照。

C 1807～08年のナポレオン占領下のベルリン大学での連続講演は、「国民」概念の覚醒や国民主義（ナショナリズム）に大きな影響を与えた。

- D ブルシェンシャフト（ドイツ学生同盟）の運動は、イエナ大学を中心としたドイツの「自由と統一」を求める運動で、ルター決起（『95カ条の論題』）300周年を記念してヴァルトブルクの森で氣勢を上げた（1817）が、メッテルニヒ主導のカールスバート決議（1819）により弾圧された。
- E オーストリア領内のドイツ人居住地域を除き、プロイセンを中心にドイツ統一をめざす考え方を小ドイツ主義と呼ぶ。経済面ではドイツ関税同盟（1834）がプロイセン主導で行われ、オーストリアを含まない経済的統一が実施されていた。関税同盟の提唱者である歴史学派経済学者リストの名と、彼が保護貿易主義を主張していたことも併せて確認しておこう。
- F デンマーク戦争（1864）はデンマーク対プロイセン・オーストリアの戦争。ウィーン体制下でデンマーク領となっていたシュレスヴィヒ・ホルシュタイン両公国をめぐる争いで、戦争後のガシュタイン協定により両公国の領有権は共同のまま、シュレスヴィヒをプロイセンが、ホルシュタインをオーストリアが管理することとなった。この地域はドイツ系住民が多かったため、この結果をビスマルクは普墺戦争の原因に利用した。
- G カルボナリというミスをした方はいないと思う。万が一ミスをしていた場合、必ず反省した上で要点を自分の手でまとめ直しておこう。秘密結社カルボナリはナポリ革命（1820）、ピエモンテ革命（1821）、イタリア騒乱（1830～31）を起こしたがごとく失敗した。秘密結社に限界を感じたマツィーニは、亡命地マルセイユで大衆政党青年イタリアを結成した（1831）。
- H 共和主義を掲げたマツィーニは、サルデーニャによるイタリア統一に対抗するため千人隊（赤シャツ隊）率いてナポリ（両シチリア）王国を征服した。しかしサルデーニャの首相カヴールの説得を受け入れ、サルデーニャ王ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世（位1849～61）へ献上した。

【3】

解答

- 問1 1 ブランデンブルク 2 ユンカー 3 ティルジット 4 ライプチヒ
5 1867 6 ヴェルサイユ 7 社会主義者鎮圧法
- 問2 グーツヘルシャフト（農場領主制） 問3 君主は国家第一の僕
- 問4 シュタイン 問5 「ドイツ国民に告ぐ」
- 問6 オーストリア領内のドイツ人居住地域までを含んだドイツ統一をめざす立場。
- 問7 鉄血政策 問8 文化闘争 問9 保護関税法

解説

プロイセンのドイツ統一からビスマルクの政策までを範囲とした基本問題。失点しがちな問1～5、問2、問4では確実に得点しておきたい。早慶レベルでは可否に影響する。

- 問1 1 ドイツ統一の中心となったプロイセン王国は、エルベ川以東への東方殖民を背景に生まれた2つの勢力が合体して誕生した。12世紀に成立したブランデンブルク辺境伯領は、15世紀以降ホーエンツォレルン家領となり、1356年の金印勅書で選帝侯となった。一方、13世紀に成立したドイツ騎士団領はその後ルター派へ改宗し、16世紀にプロイセン公国と

なった。この2つの国が1618年の三十年戦争の勃発時に合併し、さらに1701年に始まるスペイン継承戦争にはオーストリア王（神聖ローマ皇帝）に味方して参戦したことで王国へと昇格し、1713年のユトレヒト条約でその成立が承認された。

- 2 西欧の絶対王政と異なり、中欧以東では国王の官僚・常備軍の中枢を領主貴族であるユンカーがこれを担った。ユンカーの経営する大農場がゲーツヘルシャフトである。
- 3 イエナの戦い・アウエルシュテットの戦い（1806）でプロイセンはナポレオンに敗れ、ベルリンを占領されるとティルジット条約（1807.7）を結ばされた。これにより、エルベ川以西のプロイセン・プロイセン領ポーランドを奪われ、プロイセン領は半減した。
- 4 ナポレオンのロシア（モスクワ）遠征（1812）が失敗すると、第4回対仏大同盟（1813）が結成されて解放戦争が始まり、ライプチヒの戦い（1813）でナポレオン1世を撃破し、退位に追い込んだ。
- 5 普墺戦争でオーストリアが敗れると、オーストリアを議長国とした35邦4市からなるドイツ連邦は解体され、プロイセンを盟主とするライン川以北の22邦による連邦国家である北ドイツ連邦が成立した（1867）。また、南ドイツ諸邦もプロイセンと同盟しており、事実上のドイツ帝国の成立であった。
- 6 普仏戦争（1870～71）中、パリ陥落直前にヴェルサイユ宮殿鏡の間でヴィルヘルム1世が即位し、プロイセン王を皇帝、プロイセン宰相を帝国宰相とするドイツ帝国が成立した。
- 7 ドイツは統一の過程で関税同盟が成立し、アルザス・ロレーヌの獲得で石炭・鉄鉱石の入手が容易になったことから経済が活発となり、産業革命が本格化した。しかし同時に、資本家と労働者の階級闘争も始まっていた。全ドイツ労働者同盟（ラサール中心、ラサール派）と社会民主労働党（ベーベル中心、アイゼナハ派）がゴータ綱領（1875）でドイツ社会主義労働者党を結成し、労働運動を指導した。ビスマルクの内政は勢力均衡主義（一種のボナパルティズム）で農民・資本家・労働者のバランスの上で政治をしていた。このためビスマルクはブルジョワに求められ、労働運動を弾圧するために1878年に社会主義者鎮圧法を制定したが、一方で疾病保険制度（1883）・災害保険法（1884）・養老保険法（1889）などの社会政策を実施することにより、労働者の支持も集めた。

問2 問1－2の解説を参照。

問3 著書『反マキャベリ論』で、君主自らが先頭に立って国家の近代化を進めるという、啓蒙専制君主の立場を述べた。

問4 シュタイン首相（任1807～08）による農奴解放（1807）や行政機構の改革と、これを受け継いだハルデンベルク首相（任1810～22）の行政機構の改革を混乱しないこと。その他のプロイセンの近代化は、シャルンホルスト・グナイゼナウの軍制改革、フンボルトの教育改革によるベルリン大学創設などが挙げられる。

問5 ベルリン大学初代学長となったドイツ観念論の哲学者フィヒテの連続講演「ドイツ国民に告ぐ」は民族意識を高揚させた。

問6 頻出。論述問題ではあるが部分点を稼ぐのではなく、満点を取りたい問題。

問7 「現在の犬問題は言論や多数決でなく、鉄と血によってのみ解決される」というビスマルクが宰相就任に際して行ったスピーチの一説。1848年のフランクフルト国民議会での話し合いや多数決で統一が出来なかったことを揶揄した言葉。

問8 文化闘争とは新教国プロイセンの支配に対し、西南ドイツのカトリック教徒が中央党を結成(1870)して対立したことに端を発する。結局ビスマルクが弾圧したが、社会主義勢力への対策のため妥協して終わった。

問9 1873年の経済恐慌を背景とし、ドイツ重工業をイギリスの工業製品から保護するため、またユンカー農業をロシアの安い農作物から保護するため、79年に制定された。

【4】

解答

問1 1 ま 2 え 3 は 4 き 5 さ 6 な 7 ち 8 に
9 こ 10 ほ 11 そ 12 せ 13 つ 14 の 15 う 16 ふ

問2 A ナ B テ C サ D ニ E ウ F セ G ケ H ク
I ノ J ネ K ス L ハ M ヒ N ソ

解説

文化史はストーリーで学びづらい(学ぼうとすると膨大な時間がかかってしまう)ため、つい対策を後回しにしてしまっている人も多いだろう。ただ、直前期に追い込みが効く「苦手分野」の筆頭格が文化史である。以下の解説を参考にしつつ、見たことはあるが詳しく知らなかった人物については資料集・用語集などで補完しておこう。

- A ショーペンハウエル(ショーペンハウアー)は「世界の本质は生への意志である」との言葉で有名で、独自の厭世哲学にたどり着いた。
- B・C ニーチェはキリスト教を「奴隷の道徳」として批判した。「神は死んだ」として、人類が権力への意志により雄々しく自己を乗り越える存在を超人思想で説いた。
- 1・2・D ボードレールやワイルドに代表される耽美主義では、善悪や道徳ではなく、ひたすらに美の追求を人生の目的とする。
- 3 シュベングレーは、『西洋の没落』で諸文明を比較研究し、西洋文明が没落期にあるとし、第一次世界大戦後のヨーロッパ世界に衝撃を与えた。
- 4・5・E ヤスパースは有神論的実存主義の立場で、『理性と実存』や『哲学』で知られる。一方、ニーチェや『存在と時間』のハイデッガー、『存在と無』のサルトルなどは無神論的実存主義の立場である。ハイデッガーは第二次世界大戦中のナチスとの関係を批判的に指摘される一面もある。サルトルが反ナチス抵抗運動に参加したことは有名。
- 6・F 実用主義を重視するアメリカ人の行動原理を理論化したのが、プラグマティズムである。ジェームズは「真理とは生活の発展に有用なもの」としてプラグマティズムの普及に努め、デューイはプラグマティズムを大成した。
- 7～9 カミュの第一作は『異邦人』で、不条理の哲学を完成したとされるのが『ペスト』。『魔の山』で名高いトーマス=マンは、ナチス政権を嫌いアメリカへ亡命したことも有名。『三文オペラ』のブレヒトも、ナチス政権成立とともにアメリカに亡命した。
- 10 「失われた世代(ロスト=ジェネレーション)」の代表であるヘミングウェイは、第一次世界大戦の経験から『武器よさらば』を、スペイン内戦に義勇兵として参加した経験から『誰がために鐘は鳴る』を書いた。

- 11・H・I 『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で、西欧資本主義の誕生と発達をプロテスタントの存在と関係付けて論じたマックス=ヴェーバーは広範な研究を残した社会学者である。空欄Iは選択肢がなければまったく見当がつかないが、選択肢中からなら「ノ」の「官僚制」(=ビューロクラシー；bureaucracy)が入る。
- 12・J 『雇用・利子および貨幣の一般理論』で知られるケインズの理論は、世界恐慌後のニューディール政策の指導理論となる。彼はブレトン=ウッズ会議のイギリス主席代表でもあり、第二次世界大戦後の国際通貨基金（IMF）・国際復興開発銀行（IBRD）の総裁となった。
- 13・K・L マティスやルオーらは明暗や写實的形態描写を拒否し、何より原色の大胆な使用による「色彩の解放」が特徴である。彼らの作品への批評家による「野獣（フォーヴ）」との言葉から野獣派（フォーヴィズム）との語が生まれた。ブラックやピカソは「形態の解放」である立体派（キュビズム）の美術運動を進めた。彼らの作品は「どれもこれも立方体（キューブ）だ」,「風景も人物も幾何学的パターン、キューブに戻ってしまう」と評された。
- 14・15・M 精神分析・無意識の研究に道を開いたのが、オーストリア生まれのフロイト。心理現象を、性欲とそれを意識的・無意識的に抑制・解放しようとする葛藤から理解しようとする。20世紀の人文・社会諸科学や芸術に多大な影響を与えた。ダリらの超現実主義（シュールレアリスム）は理性の統制を受けない夢や意識下の領域を扱うことをめざした芸術運動である。
- 16・N ピカソは母国スペインのバスク地方にあった小都市ゲルニカへの、ナチス=ドイツ軍による空爆を批判して「ゲルニカ」を描いた。



会員番号	
------	--

氏名	
----	--